

原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会メンバー
からの提出資料

第 13 回 原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会 意見書

資料 <資料第 1-1～3 号 ステップ 3 の評価:2030 年まで>

シナリオを実現するために今後追加となる費用への「注記」の追加について

- 各シナリオの経済性評価に際しての「シナリオを実現するために今後追加となる費用」につきまして、使用済み燃料の返送に伴う燃料代替コストが発生するリスクがあるとの注記が必要ではないかと考えます。この燃料代替コストは、中間貯蔵施設の建設が早期段階で可能となれば圧縮を図れるコストでもあることも示されています（資料 1-4 号 使用済み燃料返送リスクについての P5）。よって、中間貯蔵施設建設の重要性をより理解いただくためにも重要な情報と考えます。

資料 <資料第 1-5 号 ステップ 3 の経済性評価の方法について>

新たな評価方法(2011 年以前に発生した費用および設備[初期建設分]の未償却分の費用を差し引く算定方法)の取り扱いについて

- 将来の政策選択肢をきちんと検討するために、過去のキャッシュ・アウト費用を取り除き、一旦白紙ベースで費用算定を実施する試みは重要だと考えます。しかし新たに採用された算定方法は、政策決定側の立場から参照すべき手法であり、コストを負担する電力需要家の立場から考えるロジックとは異なる可能性がある点は是非注記いただきたいと考えます。コスト負担者の立場からは、発生するすべてのコストを長期的にかつ公平に受益者から回収するスキーム---2011 年以前に発生した費用および設備(初期建設分)の未償却分も含めた算定費用---を用いた手法がより適切ではないかと考えます。

資料 <資料第 2 号 核燃料サイクルの政策選択肢の評価について:まとめ(案)>

選択肢の確保(柔軟性) について

- シナリオ 2 においては、「柔軟性が他のシナリオより高い」と表現されています。ただし、判断を遅らせることによる発生するメリット・デメリット、意思決定する時期・条件等の具体的な姿が明らかでない中では、必ずしも「他のシナリオより柔軟性が高い」とは言い切れない可能性もあると思われます。判断を留保するに当たり、明確な一定の条件を付することが前提となるべきことを注記すべきではないかと考えます。

モルガン・スタンレー MUFG 証券株式会社
又吉由香